みいけ

発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番 ③3034番
編集兼発行人　澁田紀生
年間600円　送料共

今こそ示せ団結ぶり

団結駅伝いよいよ迫る

ぞくぞく練習開始

もの凄いはりきり方

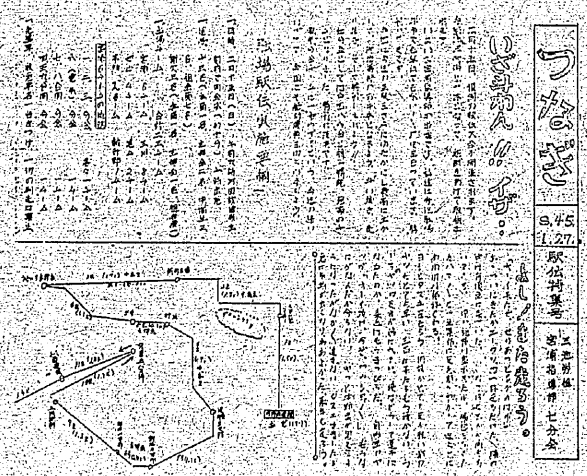
さあ、"第一回職場対抗団結駅伝大会"が、いよいよ迫ってきた。参加チームは出そろい、ぞくぞく練習をはじめているが、何しろ三池労組独特の家族ぐるみの駅伝だというわけで、「かねての団結を示すときは今だ」とばかり、各チームともにもの凄いはりきり方である。

職場新聞も

駅伝特集

職場対抗団結駅伝に対する各チームの気組みは、そのまま職場新聞に反映され、どの新聞もぞくぞく「駅伝特集号」を発行して、優勝旗かくとくをめざす体制固めを呼びかけている。

中でも宮浦指導部職場七分会新聞"つなぎ"（一月二十七日発行）など、「いざ闘わん、イザ。いよいよ宮浦指導部の出番です。絶対優勝をねらいましょう。われらの主張、サインはV」と、まさに意気さかんである。



宮浦指導部職場7分会新聞 "つなぎ" の団結駅伝特集号

大量二十三チームが参加

二週後（十五日）に迫った団結駅伝に、次の二十三チームが参加し敢闘することとなった。

宮浦指導部関係（六チーム）
一、二、三、六の各分会チームに、四・五・九と七・八各分会の混成チーム。

三川指導部関係（八チーム）
一、三、四、五、八、十一、七の各分会チームに、九・十分会の混成チーム。

四山指導部関係（四チーム）
一・二・三分会混成A、同B、四・五と六・七の混成チーム。

本所指導部関係（二チーム）
港務指導部関係（二チーム）
一・二・三と、四・五各分会の混成チーム。

執行部関係（一チーム）

×　×

なお、各チームの選手数は十三人で、選手団構成は必ず次のようにしなければならない。

委員一人、中高生三人、主婦二人、組合員七人。

執行部選手団の場合も右に準じて構成するが、主婦はもちろん主婦会役員が当り、委員としては宮川組合長が走る。

まさに家族ぐるみの駅伝。

お知らせ

とくに優秀な成績をおさめたチームには、次のものが与えられる。

一位　優勝旗
二位　トロフィー
三位　楯

詩文集のおすすめ

組合員・主婦の皆さん、本紙購読者・CO患者守る会員の皆さん、みいけ二十年の詩文集"やがてくる日に"を、本紙ではいま広く呼びかけ、一人でも多くの読者を……とがんばっています。

まだ残本もかなりございますので、ぜひともこの呼びかけにご協力頂きたいと思います。

一冊二百円のカンパとひきかえに、お渡し致しております。ご連絡頂けばすぐお送り致しますので、よろしくお願い致します。

七〇年安保を闘う若い仲間にぜひこの詩文集をおすすめ致します。【みいけ編集部】

優勝ばどこへ

コースの全長は十六・二キロ。石田武徳殿前をスタートして、テープを切る三池労組本部前まで十三区間にわたって、家族ぐるみの団結ぶりを競うが、うかがえるところによると、各チームとも一・五キロという第一区にまずベテランを配置、最後のコースにそれぞれ主将格の委員を走らせる心づもりらしい。

執行部チームでも、最後の区間を宮川組合長自身の強い希望によって走るが、「たいていの者にはまだ負けんつもりじゃが」と、胸をはっている。

一・七キロから一・九キロという長いコースの二、三、六区を中高生が、また三百メートルから四百メートルという短いコースの五と八区を主婦が走ることにきまっているものの、短いとはいえ日常家計のやりくりと内職に追っかけまわされている主婦の足にすれば、大変なことだと同情の声もある。でも、どんなたたかいにでも男に負けない団結の力を発揮する三池の主婦のこと、力走ぶりを見せるのは確実。果して、どの分会チームがどれだけの時間で優勝を手にするか、見もの。

再び閉山危機強まる

炭労中央動員実施「企業再建対策を」

七〇年春闘を目指して体制固めにはいっている炭労は、当面する閉山阻止と再建対策を要求する、きわめて緊急を要する闘いを組むことをせまられ、早くも中央動員を実施して闘争に立ち上がった。

こんどの中央動員の目的は、「閉山、縮小を停止せよ」などを要求しつつけている。

その間第四次石炭政策は完全に破たんしてしまって、昭和四十八年度までに三百九十万トンを縮小しようというその目標を、現実はすでにはるかに突破して、早くも六百万トンを越えてしまった。

すでに北星、重内、好間の各山を検討せよ」「新政策樹立まで閉山、縮小を停止せよ」などを要求しつつけている。

その間第四次石炭政策は完全に破たんしてしまって、昭和四十八年度までに三百九十万トンを縮小しようというその目標を、現実はすでにはるかに突破して、早くも六百万トンを越えてしまった。

すでに北星、重内、好間の各山にもとづき新石炭政策の基本構想を検討せよ」「新政策樹立まで閉山、縮小を停止せよ」などを要求しつつけている。

その間第四次石炭政策は完全に破たんしてしまって、昭和四十八年度までに三百九十万トンを縮小しようというその目標を、現実はすでにはるかに突破して、早くも六百万トンを越えてしまった。

すでに北星、重内、好間の各山

炭労は昨年から政府・資本に対して、「石炭産業の国有化」「体制委員会を早急に開き国有化方向

炭政策資金を、本年中に投入させる」というのである。

こんどの動員は総勢六百五十人（うち三池労組は主婦の一人を含めて八人）。

山元出発は三日。帰着は十五日の計画。その間炭労指示により、具体的に行動する。

炭労は昨年から政府・資本に対して、「石炭産業の国有化」「体制委員会を早急に開き国有化方向

が、そのかげを消し、今下山田、赤池が閉山に追いこまれている。

九十億円も融資した事実は、とく雄別が、一月分の賃金支払いさえ確保できなくなり、住友グループ（赤平、奔別、歌志内）では、既得権の返上か、それとも閉山・縮小か、を労働者にせまる情勢があらわれてきた。

まさに炭労資料が指摘するように、「石炭産業全体をつらぬく危機の象徴」にほかならない。

ところがこんど石炭鉱業審議会の会長の椅子を、鉄鋼業資本代表がにぎったこと、さらには、その

こんどの中央行動のもっている意義は、はかり知れず大きい。

新労、諸要求案出す

福利闘争攪乱がねらい

三池新労組は去月二十八日「諸要求について」という大衆討議資料を発表した。

資料によれば、すでに同月二十六日に開いた中央執行委員会でまとめた要求内容とのことである。

さて内容であるが、「営繕費」「将来の社宅計画の提示」「電気基準使用量の引上げ」「通勤（住宅）手当の引上げ」「社宅じん埃処理」「文化資金の増額」「優良鉱員の表彰枠の拡大」「採用制度の確立」「坑内の全払自走枠化」「入院患者見舞品の値上げ」「年次有給休暇の私傷病長欠者に対する救済」などとなっている。

もちろん言葉は「要求」の感じを与えているものの、たとえば優良鉱員表彰枠の拡大などに見られるように、会社の労務政策そのものがずばりと具体化していたり、あるいは「われわれが今年度の運動方針に掲げた長期計画に基づく全社宅の炊事場の総板張り、流し場のタイルばりによる改造工事についても社宅改修工事に併せ、四十四年度末には第一期工事分として約五百二十戸程度が完了する予定である」などと、まったく会社と労働組合との区別がつかない姿事実の中に、わが国の支配層がますます、自国の石炭産業をとりつぶしながら、逆に原料炭の海外依存度をいっきょに強めるかまえを強めたことが示されているから。

これはわが国の石炭産業の危機を救うどころか、この上深刻にする道でしかなく、石炭産業労働者にとり重大な問題だといわなければならない。

以上のような背景を考えれば、こんどの中央行動のもっている意義は、はかり知れず大きい。

三池労組の闘争を困難につき落とそうとねらっているわけで、悪らつですよ。

新労組員の人たちも、そのことは、ちゃんと知っています。だからこんな芝居にはかまわんで、じゃんじゃんやることですたい」

こうしてことあるごとに、新労組幹部らを使って、三池労組の闘いの足をひっぱることをたくらむ三井鉱山に、改めて職場・地域の怒りが強まらずにはいないだろう。

沖縄全軍労へ

激励の組合旗

いま不当なアメリカの占領政策と真っ向から対決しながら闘っている、沖縄全軍労に対する激励行動が全国的に強まっている。

三池労組でも何はともあれ、宮川組合長の激励の声を吹きこんだテープと、寄せ書きした組合旗を贈ることになった。

これらの品は、この八日大牟田出発、交流のため沖縄に向かう三池労組代表（六人）の手にたくすことになっている。きっとよろこんでもらうことだろう。

炭労大会は19—20日に

炭労第六〇回臨時大会は、きたる十九～二十の両日東京で開催、「七〇年春闘方針」「炭労災害犠牲者遺族会の再編成」などの、重大な方針案を確立することになっており、三池労組ではすでに執行部段階で方針案の審議を開始した。

大牟田で総評の討論集会

この六日午後六時から福祉会館で、総評が春闘をもりあげるためにすすめている第二次一千カ所討論集会大牟田地区集会が開催される。中央総評から中田組織局次長と福岡県評から名田事務局長が出席して討論に加わり、七〇年春闘への意志統一を行なう。

なお大牟田に去月三十日、大地評が中心となって「大牟田地区春闘共闘委員会」が発足した。

不知火女子高校、大牟田農協、県立高校事務職、中央自動車学校、全運輸海運局、九州火力、熊本と肥後の両相互銀行などの中立組合も結集されている。